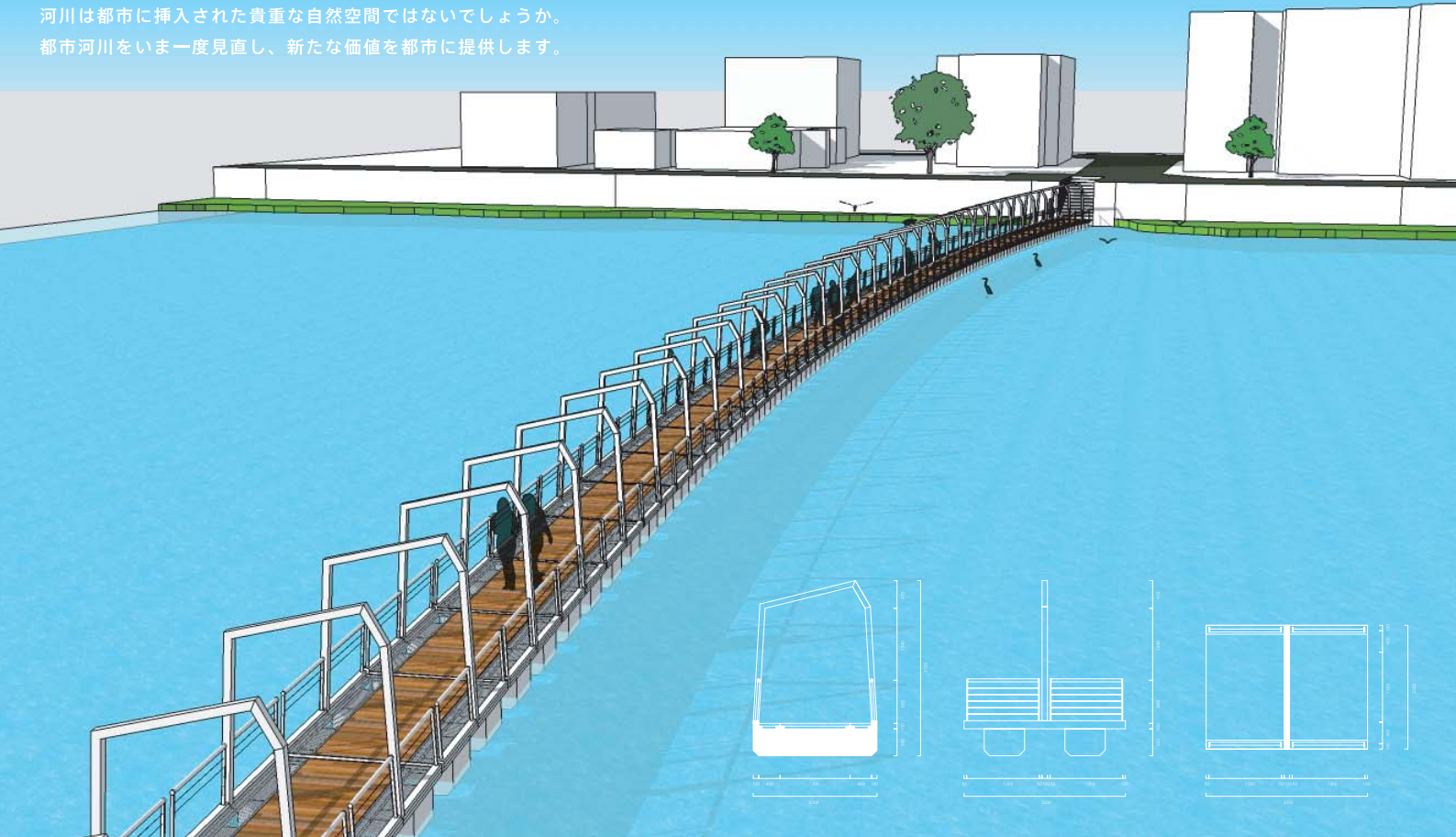


# 那珂川に浮かぶ橋

都市的ふるまいに挿入される自然としての河川

河川は都市に挿入された貴重な自然空間ではないでしょうか。都市河川をいま一度見直し、新たな価値を都市に提供します。



## ○背景 | Background

那珂川に架かる歩行者専用橋「高木橋」のリ・デザイン提案です。那珂川は福岡の都心部を流れる一級河川です。都市的河川でありながら川幅が広く非常にゆったりとした流れが特徴で、多くの野鳥や生物を観察することができます。しかし、都市に住む我々はそのことには気づくこともなく、せかせかとした都市的ふるまいのなかで、川は橋によってつながれた「単なる通路」としか認識されないのではないのでしょうか。これは、高木橋に限ったことではないと思われま



photo: 那珂川に架かる高木橋

## ○目的 | Purpose

本提案では、那珂川を都市に挿入された貴重な「自然ストック」とみなし、この自然の恵みを大いに享受できる橋および、その活用プログラムをデザインすることで、都市的生活のなかにおけるアメニティの創出と、自然に触れる機会の創出を目的とします。

## ○方法 | Method

空地の少ない都市において、川岸を親水化することは多くの困難を伴います。そこで、川に架かる橋自体を親水

空間とみなした「浮橋」を提案します。橋脚のない橋は、私たちと水面との距離をぐっと縮め、日常の都市的ふるまいの中で、自然の恩恵を受けることができるのではないのでしょうか。

立ち上がった躯体は照明設備を内蔵しながらも、ルーバーとして機能します。歩行線形上の都市的風景を一時的に遮断し、河川軸に向かって視線を開放します。床面には透過性の高い素材を用い、視線を下げればすぐそこに水面が現れます。

ユニットを連ねることで構成される浮橋は、刻一刻と変わる川の流れによってその線形を変え、私たちに自然の営みを改めて知らせてくれるはずです。

## ○提案がもたらす効果 | Effect

浮橋を通学路に指定し、四季を通しての川の変化や、野鳥・生物とのふれあいを日常生活に取り込むことで、感性豊かな子供たちを育てることができます。

増水時は通行できませんが、むしろそのことを通じて自然の脅威を改めて感じることができます。

地上面より低いことや、浮橋独特の揺れにより自転車が通行しにくいと、自然と「押しチャリ」を行いません。狭い歩行者専用橋における危険な離合を回避すると同時に、自転車通行では気づかない川の表情や生き物たち様子を知らることができます。



image: 川の変化や野鳥を身近に感じることができる

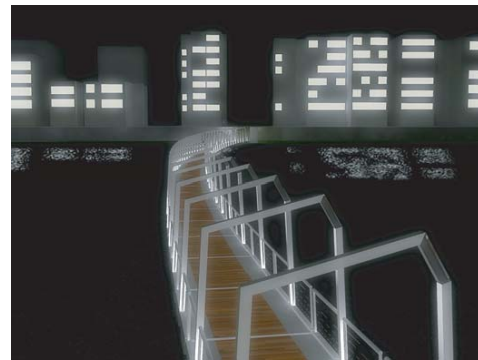


image: 夜間は照明によりランドマークとなる

